

(2) 地域の公共施設等における子ども読書活動の推進

子どもと保護者への取り組みの充実

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
20	豊中版ブックスタート事業「えほんはじめまして」→23年8月よりブックスタート事業「えほんはじめまして」	赤ちゃんにとって親子のふれあいや温かい語りかけが大切なこと、赤ちゃんと一緒に絵本を読み合う楽しさを伝える事業。図書館が子育て支援の場であることや利用の方法についても伝える。引き続き4か月児健診時、市内3か所の会場で行う。家庭でもすぐに楽しめるよう絵本を1冊配布するほか、絵本のリストや図書館の案内、子ども文庫のしおり等をコットンバッグに入れて配布する。また健診未受診者へ保健師が絵本もしくは引換券と「えほんはじめまして」の資料を配布する等、状況に応じて働きかけを行う。 [123にも掲載しています。]	拡充	○	ブックスタートパック手渡し率	94.7%	乳幼児と絵本を楽しむことへ関心を持ってもらえ、図書館が子育て支援の場であることも認知されてきた。第2期計画における居宅親子への支援のあり方等課題を認識し、23年8月からはすぐに家庭でも親子で楽しめるよう、従来の「えほんはじめまして」の資料に加え、絵本を1冊配布することになった。これにより家庭での読書環境の充実をすすめ、より絵本を身近に親しめるような内容となった。また事業に関わっていただいている市民ボランティアの新たな募集・講座を実施し、さらにきめ細かな対応ができるように努めた。(市立図書館) 乳幼児と絵本を楽しむことへの関心を持ってもらうことができ、図書館が地域の人や子育てをしている保護者の交流の場、子育て支援の場として認知されてきている。(保健予防課) * 23年度より「受診者数/受診率」から指標を変更。	○読書振興課・図書館 保健予防課 豊子連
<p>赤ちゃんに絵本の読み聞かせを始めると「見るんですね」と驚かれ、繰り返し楽しめました。／「懐かしい！自分が子どもの時に読んでもらって覚えているのでこれにします」／お父さんが初めて赤ちゃんに読んであげた様子で、赤ちゃんをご夫婦で嬉しそうに見守っておられました。(健診会場の記録より)</p>								
21	乳幼児向けおはなし会「ほっとタイム」年齢別ほっとタイム「うきうきタイム」	「ほっとタイム」ではプレイルームに来館した0歳～就学前の子どもと保護者を対象に、あそびを提供し、気軽に参加してもらい、子ども同士や保護者同士の仲間作りの場で絵本の読み聞かせや年齢にあった絵本の紹介を行う。またこれらの事業を年齢別に行う「うきうきタイム」もあわせて実施する。	継続	○	回数/参加人数	1,149回/25,416人	4月に1か所が増設され、地域子育て支援センターが16か所。子育て支援センター1か所。全センターでお話会が実施される。回数を重ねるごとに楽しみに参加する保護者も増えてきている。内容によっては、参加者とのやりとりを交えながら、お話作りも行っている。絵本の楽しさを子どもはもちろん子育てをしている保護者がより楽しいものと感じてきているようだ。年齢に合わせた絵本の特徴や楽しさを伝えていくことで生活の中で自然に絵本などを取り入れる大切さを伝えていきたい。 ○センター1,091回/22,442人 ほっぺ 58回/2974人	子育て支援センター
22	親と子の遊びのひろば「パンダグループ」「こぐまグループ」	「パンダグループ」では2・3歳の子どもとその保護者を対象に、あそびや情報の提供をする中で保護者同士が子育ての楽しさを実感したり、悩みを出し合い、地域の中でつながる機会となっている。また「こぐまグループ」は1歳6か月から2歳未満の子どもと保護者を対象に遊びや情報提供を行っている。これらの取り組みの場で絵本の読み聞かせや年齢にあった絵本の紹介を行う。	継続	○	回数/参加人数	668回/14,552人	パンダやこぐまではまず絵本の楽しさを伝えている。連続講座なので保護者にも子どもにもすんなり入っていく。こぐまやパンダの活動の中で、保護者同士が、相談しながら工夫し、子どもへ披露してくれる機会を持つと、保護者同志の関係性も深まり、また子どもの喜ぶ姿を見て保護者も子育ての自信をつけているようだ。保護者同志のつながるきっかけに絵本などが媒体としてとても有効なツールだと実感している。 ○パンダグループ492回/10,096人 こぐまグループ176回/4,456人	子育て支援センター

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
23	「出前講座」	地域の子育てサロン・子育てサークル等に出向き、遊び提供の場での読書活動(絵本・紙芝居・ペープサート・パネルシアター等)を推進する。	継続	○	回数	592回	公園・サロン・サークル・午後の幼稚園・小学校の空き教室など、居宅の親子が出向きやすい場所で読み聞かせができる機会を多く作り実施した。	子育て支援センター
24	「センター講座」 「ほっぺ講座」	子育て支援センターで、保護者向けに子どもの読書の楽しさ、大切さを伝える講座を行う。各センターの講座に参加することで職員の研修として活用する。また課題などについてセンター間で情報を共有し、事業点検を行う。	継続	○	保護者向け講座回数	68回 ／ 1,824人	講座に関しての保護者のニーズは高い。子育ての中に絵本を！親子で楽しもう！年齢にあった絵本は？など…いろいろなテーマに沿った講座のねらいを持ち、読み聞かせや絵本の紹介をしていただいた。保護者の感想としては、「絵本の選び方や読みかきかせの方法など参考になった。」「絵本を読むきっかけになり図書館に行こうかなと思った」。など専門家のアドバイスは、好評であった。 ○センター53回／1,402人 ほっぺ15回／422人	○子育て支援センター 読書振興課・図書館
25	「子育て総合支援事業」	子育て支援講座や育児相談事業の中で、子どもと本に関する講演会や相談を行う。 全市立幼稚園(7園)実施	継続	○	回数／参加人数	4回／ 132人	絵本の楽しさを大人自身が実感できる講座として好評である。講師のゆったりとした読み聞かせに、ほっとできる時間ですという感想あり。	幼児教育支援センターたんぼぼ
26	フリースペース	就学前の親子を対象に週2回、親子でくつろげる場を提供する。また、毎回絵本の読み聞かせやエプロンシアターなどを行う。	継続	○	回数／参加人数	95回 ／ 2,204人	幼児教育センターたんぼぼ事業としては23年度に終了するが、てしま幼稚園地域子育て支援センターで引き続き実施する。 * 幼児教育支援センターたんぼぼは24年度よりてしま幼稚園地域子育て支援センターへ移行。	幼児教育支援センターたんぼぼ
27	親子たんぼぼ体験教室	未就園児の親子を対象とするプログラムで毎回絵本の読み聞かせを行う。(てしま幼稚園としんでん幼稚園で実施)	継続	○	回数／参加人数	7回× 10ケル× 2園／ 親子 300組	その日の遊びのイメージがもてるような絵本を選んだり、毎回いろいろな絵本を読むことで子どもの興味・関心が広がった。 23年度で事業終了。	幼児教育支援センターたんぼぼ
28	図書貸出し	幼児教育支援センターたんぼぼに図書スペースを設置し、フリースペースの参加者や子育て中の保護者を対象に絵本や子育てに関する図書の貸出しを行う。	継続	○	貸出人数／貸出冊数	116人 ／ 307冊	幼児教育センターたんぼぼ事業としては23年度に終了するが、てしま幼稚園地域子育て支援センターで引き続き実施する。 * 幼児教育支援センターたんぼぼは24年度よりてしま幼稚園地域子育て支援センターへ移行。	幼児教育支援センターたんぼぼ
29	情報相談	子育てに関する相談の中で絵本にふれる機会を提供する。	継続	○	子育てに関する情報相談件数	8件	利用案内や講座案内の折に絵本を案内する機会がある。	すてっぷ

地域の公共施設等

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
30	お父さん・おじいさんへの働きかけ	お父さんへの家事・育児参加を働きかける講座で絵本を紹介し、利用につなげる。	継続	○	リスト掲載冊数／配布枚数	30冊／155枚	テーマ展示「できる男の人生の楽しみ方」リストを作成・配布。(男性の家事・育児に関する図書や児童書を多数含む) 23年7月31日館長講座「祖父の孫育て」を開講、祖父の育児参加や絵本の読みかせなどについて語る。参加者に絵本をプレゼントした(講座は1回/21人)。 今後も対象者に積極的に働きかけていきたい。	すてっぷ
31	お父さん・おじいさんへの働きかけ	お父さん、おじいさんなどに絵本への関心を広める機会の提供を行う	継続	○	参加人数	129人	岡町図書館では男性職員によるおはなし会を春のこどもの読書週間に合わせて実施。迫力のある男性の声でのおはなし会では、大型絵本や紙芝居、ストーリーテリングを楽しんだ(子ども21人、大人18人)。土曜日の実施で、お父さんと子どもの参加も多かった。千里図書館では「春休みおはなしワールド」をお父さんも参加しやすい日曜開催にした(子ども46人、大人44人)。	読書振興課・図書館
32	子育てグループ活動への支援	公民館グループで活動する子育てサークルに子どもの読書に関する講座や情報の提供を行う。	継続	○			図書館のリサイクル本を活用した、図書コーナーを中央公民館のロビーに設置している。	公民館
33	啓発講座	子どもの読書の楽しさや大切さを伝える講座を開催する。	継続	○		1回／150名	すてっぷ登録団体事業助成金事業として「おはなし会とつとこ」が、絵本の読み聞かせ夏休みスペシャル講座「絵本とピアノのコラボ」を23年8月15日に実施。	すてっぷ
34	保護者向け講座の開催	子どもの読書の楽しさや大切さを伝える講座を開催する。	継続	○	参加人数	15組	子育て広場「絵本のよみかせ」では、1歳から就学前の子どもと保護者を対象に幼児期のよみかせの大切さを学ぶ機会を提供した。	公民館
(アンケートから) 絵本のよみかせ、手遊びあってとても楽しく、子どももくぎづけでした。図書館の方々が、とても感じがよく、たのしい時間でした。								

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
35	おはなし会	子どもたちの身近な施設でおはなし会を開催し、本やおはなしを楽しむ機会をつくる。	継続	○	回数／参加人数	24回／480名	すてっぷ登録団体「おはなし会とっこ」が、月に2回(第1、3月曜日)すてっぷロビーのキッズスペースで、親子を対象とした「絵本の読み聞かせと手あそび」を実施。絵本と手あそびを通して、豊かな感性を持った子どもの育成をめざし、親子のふれあいの場とする。課題となっていた読み手育成に関しては、23年6月4日と18日にすてっぷ登録団体事業助成金事業として「読み聞かせボランティアのための音読講座」を実施した(2回60名)。引き続き、周知・広報に努め、参加人数を増やすことが課題である。	すてっぷ
		子どもたちが生活の一部として利用している児童館の中でおはなし会を開き、本やお話に親しむ機会ときっかけを作っていく。	継続	○	回数／参加人数	12回／97人	ロビーを会場として、その月や季節に応じたキャッチフレーズを作り、そのテーマの本を図書館職員に選んでもらい、数冊を読んでもらった。低学年を中心に聴いているが、高学年は参加者がかなり少ない。本の選択、おはなし会のもち方など高学年が関心を持つような工夫が必要である。	豊中人権まちづくりセンター
		子どもたちの身近な施設でおはなし会を開催し、本やおはなしを楽しむ機会をつくる。	継続	○	回数／参加人数	79回／328人 + 3回／70人	毎週水・金3:00から4:00まで絵本の読み聞かせと工作「たのしい集い」を実施。また年3回、おはなしボランティアポケットによるおはなし会と、おりがみを楽しむ会を実施。参加者を増やしていくことが課題。利用者のニーズに応じた内容を更に検討していきたい。	庄内少年文化館 おはなしボランティアポケット
		放課後こどもクラブの活動の一環として、ボランティアによるおはなし会を開催し、本やおはなしを楽しむ機会をつくる。	継続	○	回数／参加人数	363回／16,371人	定期的におはなしボランティアポケットなどによるおはなし会を開催し、本やおはなしを楽しむ機会を作る。支援の必要な子どもたちの参加の仕方が課題になっている。	放課後こどもクラブ チーム おはなしボランティア ポケット 野畑おはなしの会

地域の公共施設等

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
36	図書館訪問	放課後子どもクラブの校外活動の一環として、図書館を訪問し、子どもたちが本を読んだり図書館が開催するおはなし会に参加しておはなしに親しむ機会をつくる。	継続	○			校外活動として図書館を訪問している。近くに図書館がない、一度に大人数の訪問になるなどの課題はあるが、一度、訪問すると、子どもも喜び、訪問していないクラブにも利用の促進を図りたい。	放課後子どもクラブチーム
37	図書リストの配布や子どもへの学習相談	男女共同参画及び自己尊重の心を育むための図書リストを作成し、配布する。また、学校司書や教員を通してのレファレンスに応じる。	継続	○	リスト掲載延べ冊数／小中学校等への配布枚数	10冊／1,000枚	夏休みの読書のためのリストを作成し配布した。来館者にも配布し、参考資料になっている。 夏休みには学習相談を実施した。	〇すてっぷ小・中学校関係施設

子どもの本や読書に関する情報提供

◆〈実施計画の取り組み〉(8ページ)をご参照ください。

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
38	子育て教室	就学前児童の保護者や子育てに関心を持つ人が、必要な知識を学習する機会に子どもの読書に関する情報の提供を行う。	継続	○	開催回数／参加人数	1回／15組	子育て広場「絵本のよみきかせ」では、1歳から就学前の子どもと保護者を対象に幼児期のよみきかせの大切さを学ぶ機会を提供した。 * 34と重複する内容	公民館

読書環境の整備

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
39	絵本コーナーの充実	保健センター等に絵本コーナーを開設し、健診時に親子で絵本とふれあう機会を提供する。	継続	○	設置箇所	3か所	各保健センターに設置。健診やクリニックの待ち時間には保護者が子どもに読み聞かせをしたり、子ども自身が本を選び、読んでいる姿が多く見られ、待ち時間を本と触れ合うことで楽しく過ごしている。	保健予防課 読書振興課 図書館
40	絵本コーナーの充実	絵本コーナーの充実、貸出し等、親子がやりとりしながら絵本に親しめる環境をより充実する。	継続	○	絵本の取り替え回数	随時	玄関や部屋の絵本コーナーに子ども用の机や椅子を設置するなど、じっくりと絵本に親しめる環境作りを行う。絵本の選定や入れ替えは、計画的に各センターが状況に合わせて行っている。今後も絵本コーナーの充実に努める。	子育て支援センター
41	読書環境の充実	すてっぷの情報ライブラリーの絵本や児童書を充実し、大人も子どもも身近に絵本と親しむことができるようにする。	継続	○	おはなし会回数／参加人数	24回 ／480人	情報ライブラリーでは児童書コーナーを設けている。また、夏休み期間には特別展示で、児童書やブックリストを並べて、大人と子どもと一緒に絵本にふれる機会をつくっている。 すてっぷ登録団体「おはなし会とっこ」が、月に2回(第1、3月曜日)すてっぷロビーのキッズスペースで、親子を対象とした「絵本の読み聞かせと手あそび」を実施。絵本と手あそびを通して、豊かな感性を持った子どもの育成をめざし、親子のふれあいの場とする。引き続き、周知・広報に努め、参加人数を増やすことが課題である。	すてっぷ
42	絵本コーナーの充実	図書館と連携し、公民館のロビーや保育室にある絵本コーナーを充実する。	継続	○	蔵書冊数	123冊	各公民館保育室に絵本コーナーを設けている。 また、中央公民館では利用者に活用していただくための絵本コーナーをロビーにも設けている。	公民館

地域の公共施設等

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
43	図書室・図書コーナーの充実、本のある居場所づくり、地域の子どもと保護者への取り組み	これまで分類上は「図書室・図書コーナーの充実」のみであったが、子育て交流広場での読み聞かせ、絵本を通して子育てを振り返るおはなし会、友達との調べ物、物語から自分を振り返る人権学習など本に関わった取組みが増えているので、これらを前面に出して読書への関心へとつないでいく。	継続	○	館利用人数	館利用人数 39,491人、 図書50人	図書館が近いので貸出より居場所としての図書室利用が多い。プレイルームにも絵本コーナーを設けており、読み聞かせをする親子の姿も多い。 小学生は調べものやプログラムに沿った学習に図書を利用したり、友達どうして本を読み合う姿も多かった。 おはなし会や絵本の読み聞かせをとおして、子育てや自分自身、友達のことなどを振り返る機会をもった。 蛭池のふれあい月間に蛭池図書館・公民館と「電車がつなぐ人とまち」を継続実施した。模型操作と電車絵本のコーナーなどを設けた。 ※読書直結のプログラムは別項目に記載。	蛭池人権まちづくりセンター
	図書室・図書コーナーの充実、本のある居場所づくり、地域の子どもと保護者への取り組み	団体貸出の利用と保護者等からの絵本のリサイクルにより、図書コーナーの充実を図る。また、本に囲まれた環境の中で学習室としても活用を増やすなど、子どもが本を身近に感じる環境作りをしていくために壁装飾の取替えを学期ごとに行うことを企画していく。	継続	○	館利用人数	65,170人	本に囲まれている感じが落ち着くのか、宿題をしたり、就学前の親子が本を手に行っている姿がある。 また、3学期に「安心子ども基金」により本を購入できたので、子どもも関心を持ち、本に親しむ環境が充実しているが、来館中に長編を読むには時間がなく、貸出しが課題である。	豊中人権まちづくりセンター
	図書室・図書コーナーの充実	資料の新規購入や団体貸出の利用により図書室を充実し、子どもが身近に本と親しむことができる環境を整備する。	継続	○	児童書所蔵冊数／団体貸出	2,005冊／ 74冊	大型絵本や展示の工夫により、子どもの目に留まりやすい配架を心掛けている。子どもが手に取った本を大人に見せに行き、一緒に読んで楽しんでいる様子がうかがわれる。今後も継続的に子どもが身近に本と親しむことができる環境を整備していく。	すてつぷ
	図書室・図書コーナーの充実	資料の新規購入や団体貸出の利用、また一般市民からの寄贈本やリサイクル本などの活用により図書コーナーの充実を図る。また、子どもが身近に本と親しむことができる環境づくりのために表示板の作成や壁面構成に努めている。	継続	○	貸出人数／貸出冊数	2,167人／ 6,325冊	平日は文化館で活動する子どもや、地域の子どもの居場所になっている。土・日曜日は北摂子ども文化協会が開催しているクラブ・カルチャー教室の利用者が多い。幼児、小・中学生を主に、一般利用者にも貸出を行っている。資料購入冊数は年間200冊程度。資料費が限られる中、今後も寄贈本やリサイクル本を利用していきたい。	庄内少年文化館
図書室・図書コーナーの充実	資料の新規購入や団体貸出の利用により、放課後子どもクラブなど各施設の図書室や図書コーナーを充実し、子どもが身近に本と親しむことができる環境を整備する。	継続	○	貸出校数／貸出冊数	41校／ 12,140冊	年度末にこれまで図書館から配本を受けていなかった小学校の放課後子どもクラブでも実施することになり、全校への配本(読みもの、紙芝居など100冊)が実現した。今後も子ども達の身近な場所に本があるという環境を充実させ、読書を推進していきたい。	放課後子どもクラブチーム	

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
44	図書コーナーの充実	男女共同参画及び自己尊重の心を育むことに関する図書や絵本を充実する。	継続	○	児童書購入数	32冊	継続して購入した結果、利用者の関心も増え利用されている。今後も継続的に男女共同参画及び自己尊重の心を育むことに関する資料を充実していく。	すてっぷ
45	見学・交流会	図書室や図書コーナーの充実と情報交流のため保育所(園)、幼稚園や他の施設の訪問や見学を行い、図書館サービスに関する情報提供を行う中で、必要な支援、連携を実施する。	継続	○			23年度も東豊中・東豊台校区の交流会に参加した。地域の子育てに関わる関係者が集まり、情報共有を行い問題解決について話し合った。(東豊中図書館) 蛭池校区交流会に参加。「すくすくおはなしタイム」10回実施終了後、一年間の振り返りの場を持ち、参加者のアンケート等から、子育ての課題や今後の解決についての情報交換などができた。年に2回はこのような情報交流の場を設けて連携を深めたい。(蛭池図書館)	読書振興課・図書館
46	本のある居場所づくり	「青年の家いぶき」や図書館などの公共施設に、くつろいで読書や学習ができるスペースを提供する。	継続	○			公民館の保育室を利用し、春・夏休み期間「sha-beri場」を実施。近隣の高校案内ポスターを掲示し、パンフレットや図書等も備えている。勉強もおしゃべりもOKのスペースとしてゆったりとしたくつろぎの空間を提供できた。中高生の居場所を確保し、読書の支援に努める。(蛭池図書館) いぶき図書室は週2回(水・土13時~17時)開室。小学生や親子連れで利用する姿が見られる。ロビーは放課後や試験期間、長期休暇中に多くの中学生以上の利用が見られる。その中学生以上の利用促進のために開室日数や時間帯等の工夫が求められる。(青年の家いぶき)	青少年育成課 読書振興課・図書館

子ども読書活動におけるネットワークづくりと情報交流の推進

◆〈実施計画の取り組み〉(8ページ)をご参照ください。

子ども読書活動ボランティアや市民活動団体への支援の充実

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
47	子ども読書活動ボランティアの育成・支援	子育て中の保護者が、就学前の親子を対象に、絵本の読み聞かせやパネルシアター、紙芝居などを行うボランティア活動を育成・支援する。	継続	○	回数	86回	5か所の支援センターで立ち上がったボランティアグループが、ペープサートや紙芝居などの作品を作り、それをそれぞれの地域ニーズに応じた場所(公園・サロン・保育所など)で発表したり絵本の読み聞かせなどの活動を継続し行っている。	子育て支援センター
48	出前おはなし会	市民団体・子育てグループの子育て支援としてすてっぷの登録団体が読み聞かせを実施する。	継続	□	回数		検討中	すてっぷ

地域の公共施設等

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
49	研修の機会の提供	登録団体の活動を支援するため学習の機会を提供する。	継続	○	回数／参加人数	2回／60名	登録団体事業助成金事業を行っている。23年度には、すてっぷ登録グループ「おはなし会ととこと」が、6月4日・18日に「読み聞かせボランティアのための音読講座を実施した。	すてっぷ
50	情報の提供	読書活動に関する情報やおはなしボランティアの活動場所の提供を行う。	継続	○			蛭池公民館「さわる絵本一日教室」など、ボランティアの活動場所の提供に努めてきた。(4回5人)	公民館

子どもに関わる大人への啓発と研修

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
51	職員研修	子どもに関わる施設の職員が、子どもの育ちの中での読書の大切さを理解するための研修を行う。 [158をご参照ください。]	継続	○	回数	1回	「おやこでにほんご」で活動している国際交流協会のボランティアスタッフと職員向けに、「図書館における多文化の取り組み」と題して研修会を行った。図書館職員が子ども読書活動推進計画について、絵本の読み聞かせについての話をした。	読書振興課・図書館職員研修所 関係施設
52	指導員研修会	放課後こどもクラブのおはなし会活動をより充実したものにするために、指導員に対して読書活動の意義を伝え、理解を深める取り組みを行う。	継続	□	回数／参加人数	0	研修会を実施できなかった。	放課後こどもクラブ チーム 読書振興課・図書館

NO.	事業名	取組の内容	区分	状況	指標	平成23年度(2011年)実績		関係部局・団体
						実績	実施状況と課題	
22年度より追加	読書直結プログラム	読書と直結した児童館プログラムの中で図書に親しむ機会を創る。	継続	○	回数／参加人数	22回／589人	夏休みプログラムに、低学年は「読書でSHOW」で絵本の登場人物の個性を味わい、声楽マイクの前で朗読した(2回48人)。当日絵本を画面に映す係やミキサー係も自主的に分担したようで、より多様な役割を設ければよかった。高学年は「絵本クラブ」で物語を読んで自分だったらどう思うかなど気持ちや感想を話し合った(5回123人)。乳幼児親子と小学生の「いないいないばあ交流」では乳幼児親子に向けて、紙芝居を読む。回を重ねるごとに緊張がほぐれた(5回178人)。子育て交流広場の「おはなし会」では絵本から劇ごっこにつないだり、子育てを振り返ったりした(10回240人)。	蛭池人權まちづくりセンター